

カリキュラム Curriculum	人文学研究科MC		ナンバリング Numbering	HUMEC5027J
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
12609	英語教材開発演習 <Seminar on English Teaching Materials Development>			演習
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)	開講期 Semester	開講時間帯 Day and time	
英語高度専門職業人	杉浦 正利(SUGIURA Masatoshi)	春学期 (S pring semester )	金曜 : 2限	
講義題目 Title				
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	特になし			
授業の目的 Purpose	<p>外国語として英語を学ぶ学習活動において、何のためにどのような教材をどうして使うのか、そしてその学習活動を行う際にその教材をどのように使うことが効果的なのか。本授業の目的は、英語教育における教材に関する根源的な問いについて取り組み理解を深めることである。</p> <p>外国語学習に適した教材の在り方を自ら判断できるだけでなく、より良い教材を自ら開発することができるような基礎的な技能を身につけることを本授業の目標とする。</p> <p>The purpose of this course is to help students acquire fundamental knowledge and skills for EFL learning materials development.</p>			

<p>授業の内容 授業の方法 Content</p>	<p><b>授業の概要</b> 英語の学習活動に必要な情報は、音と文字と画像で伝えられる。そうした情報を目的に合わせてデザインし具体化したものが教材（情報を伝えるメディア）となる。そしてコンピューターによる情報革命により、情報はすべてデジタル化される。こうした時代背景を考え、本授業は、CALL教材開発を通して考える教材論とする。</p> <p>授業ではまずCALL教材開発に関する概要の講義と事例紹介をした後、現在行われているCALL関連研究事例を、アクティブラーニング形式で取り上げる。すなわち、文献を事前に読んできたうえで、受講生が、その文献を批判的にレビューをし、授業内でディスカッションを行う。こうして研究事例について学んだ後に、CALLに関する研究及び教育で実際に役立つ語彙課題教材、リーディング課題教材、リスニング課題教材、ライティング課題教材など取り上げ、実際にプログラミング言語（HSP）を使った教材開発演習を行う。学期末には、各自が自分の興味関心のあるテーマで実際に教材を開発し、試行的に学習活動をした結果を分析し発表をする。</p> <p>なお、本授業で修得する技能を応用することで、心理言語学の実験用プログラムを開発することも可能になる。</p> <p><b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス。CALL教材開発研究の概要。 第2回：CALL教材の開発事例紹介1：PC用教材 第3回：CALL教材の開発事例紹介2：スマホ用教材 第4回：CALL関連論文のレビュー1：教材開発の心理言語学的最適性 第5回：CALL関連論文のレビュー2：リスニング教材 第6回：プログラミングの基礎1（文字情報の取り扱い。ボタンとラベル。データ。） 第7回：プログラミングの基礎2（条件と繰り返し。サブルーチン。） 第8回：プログラミングの基礎3（画像情報と音声情報の取り扱い。） 第9回：教材の試作1（リスニング） 第10回：教材の試作2（語彙課題） 第11回：教材の試作3（リーディングとライティング） 第12回：分散分析を使ったデータの分析方法 第13回：プロジェクトの構想発表 第14回：プロジェクトの中間報告 第15回：プロジェクトの発表会</p> <p>ただし、授業内容と方法は、受講生に合わせて変更することもある。</p>
<p>教科書 テキスト Textbooks</p>	<p>必要な文献は、授業中に指示し、各自、電子ジャーナルからダウンロードする。電子ジャーナルにない場合は、コピーを用意する。</p>
<p>参考書 References</p>	<p>授業中に適宜指示します。</p>
<p>受講生の 自宅学習 Preparation and review</p>	<p>毎回の授業にあわせて、文献レビューが予定されているときは、文献を熟読しておくこと。 また、発表が予定されているときには、できるだけ事前に発表資料に目を通し、質問ができるように準備しておくこと。 いずれの場合も、授業後には、授業中に発言できなかったコメントや質問を授業用のオンライン掲示板に積極的に書き込むこと。 授業後の書き込みも授業の参加度の一部と見なされます。</p>
<p>成績評価の 方法と基準 Evaluation</p>	<p>授業への参加度（課題の提出率を含む）（30%）、発表会での報告（20%）、学期末レポート（50%）の3点から総合的に評価する。60%以上を合格とします。</p>
<p>連絡方法 Contact information</p>	<p>質問はオフィスアワーに受け付けます。（金曜日4時限目） 事前にオンラインで申し込んでください。 連絡は、授業で指示するオンラインの連絡ツールで連絡してください。</p>